

■ 概況

当週(8月21日～27日)の国際石油市場は、15日の米口首脳会議、18日の米ウクライナ・欧州主要国首脳会議をうけて、その評価、その後の展開を中心に、小幅な範囲で、やや上昇気味に展開した。また、22日の米ジャクソンホール金融会議のFRBパウエル議長の今後の利下げ含みの講演も注目された。

NYのWTI原油先物市場は、8月21日、続伸の63.52ドルで始まり、週明け25日の64.80ドルまで上昇、26日反落、27日は反発の64.15ドルで終わったものの、60ドル台前半でやや上昇傾向に推移した。

また、中東産ドバイ原油/東京市場(10月渡し)も、前週(8月14日～20日)は67.70～68.50ドルの範囲で推移したが、当週は、8月21日69.60ドル、22日70.40ドル、25日70.60ドル、26日71.10ドル、27日69.50ドルだった。

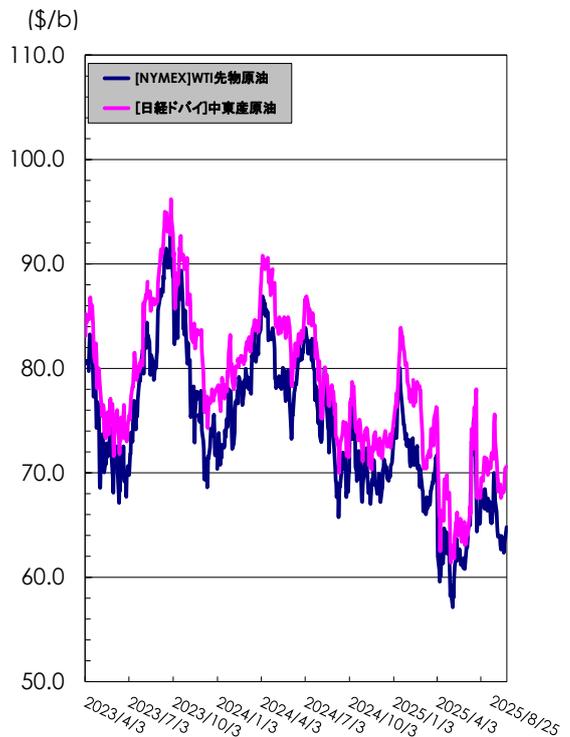
対ドル為替レート(TTM)は前週(8月14日～20日)146.69～147.90円の範囲で推移したが、当週は、8月21日147.50円、22日148.53円、25日147.45円、26日147.16円、27日

147.55円だった。

財務省が8月28日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、8月上旬の原油輸入平均CIF価格は66,864円/KLで前旬比405円/KL高、ドル建てでは72.14ドル/Bで前旬比0.24ドル/B高、為替レートは1ドル/147.35円。

そのような中で、8月25日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.5円安、軽油も同0.5円安、灯油は同4円安(18リットルベース)だった。ガソリンの全国平均価格は174.2円だった。8月28日～9月3日の燃料油補助金の支給額は、次週予想金額が175.5円となったため、3週ぶりに、「予防的な激変緩和措置」が発動され、定額分と併せ、ガソリン・軽油の場合10.5円で前週比0.5円増額、灯油・重油の場合も5.2円と同0.2円増額となった。

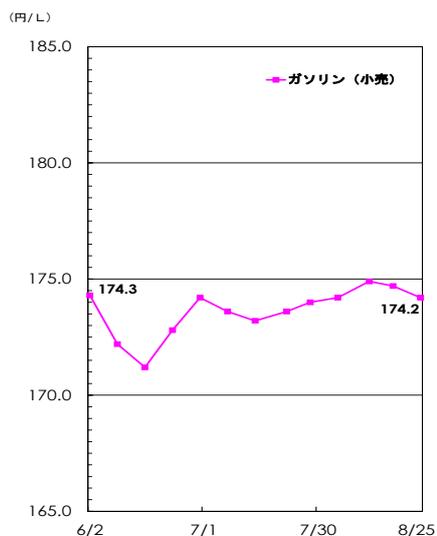
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	8/17 ~ 8/23	2,636 ▼ -104	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	76.1 ▼ -3.0	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	8/23	11,324 ▼ -594	▲ -
価格	中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl)	8/25	70.60 ▲ 2.50	▼ -7.6
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	8/25	64.80 ▲ 1.38	▼ -12.6
	原油CIF単価 (\$/bbl)	8月上旬	72.14 ▲ 0.24	▼ -15.90
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	66,864 ▲ 405	▼ -21,573
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	147.35 ▼ -0.40	▲ 12.35
	外国為替TTSレート (¥/\$)	8/25	148.45 ▲ 0.05	▼ -3.89



(単位：千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	在庫	8/23	1,552 ▲ 51	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 8/19 ~ 8/25	81.0 ➡ 0.0	➡ 0.0
価格	(TOCOM/中部)	8/25	81.0 ▲ 2.0	▲ 1.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/25	174.2 ▼ -0.5	▼ -0.3

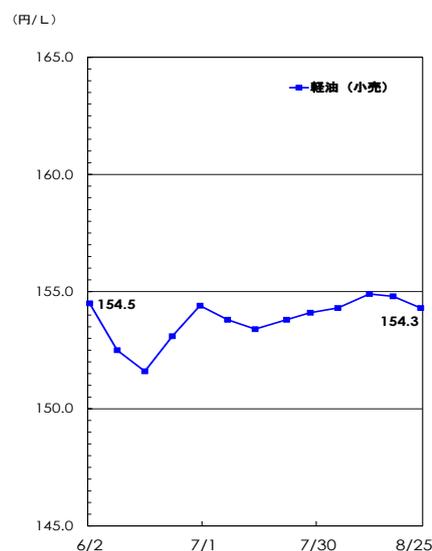
※先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

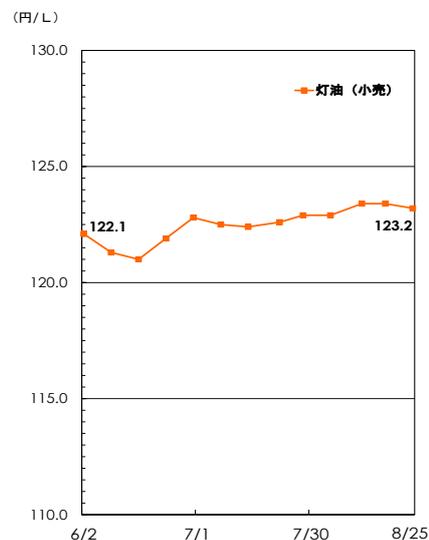
軽油		今週	前週比	前年比
需給	在庫	8/23	1,549 ▼ -95	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 8/19 ~ 8/25	81.3 ▼ -1.4	▲ 0.6
価格	(TOCOM/中部)	8/25	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/25	154.3 ▼ -0.5	▲ 0.1

※先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	在庫	8/23	2,578 ▲ 81	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 8/19 ~ 8/25	81.0 ➡ 0.0	▲ 1.0
価格	(TOCOM/中部)	8/25	82.0 ➡ 0.0	▲ 3.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/25	123.2 ▼ -0.2	▲ 6.0



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週(8月14日～20日)のNYMEX・WTI先物市場は、62.35～63.96ドルの範囲で推移した。

当週8月21日は、米・ロ(15日)、米・ウクライナ(18日)両首脳会談を経て高まった停戦期待が後退する中、対ロ制裁強化懸念が広がり、続伸した。加えて、前日発表の米石油在庫週報が、市場予想を上回る取り崩しとなったことも、上昇要因となった。この日から取引の中心限月に繰り上がった10月物終値は前日比0.81ドル高の63.52ドル。

週末22日は、この日のカンザスシティ連銀主催のジャクソンホール会議で、米連邦準備制度理事会(FRB)パウエル議長が米国の利下げに前向きな講演を行ったことから、早期利下げ期待が高まり、続伸した。引き続き、ウクライナ停戦を巡る様子見姿勢も広がった。10月物終値は前日比0.14ドル高の63.66ドル。

週明け25日は、FRBによる米国の利下げ期待が高まるなか、ウクライナ停戦を巡る交渉は難航しており、米国による対ロ経済制裁強化が懸念されていることから、続伸した。10月物終値は前週末比1.14ドル高の64.80ドル。

26日は、ウクライナ停戦交渉の行方が懸念される中、トラ

ンプ大統領がFRBのクック理事の解任を主張、FRBの独立性・自主性を否定した形となり、経済運営の公正性に疑問が出たことで、反落した。10月物終値は1.55ドル安の63.25ドル。

27日は、米国石油在庫週報が発表、原油・ガソリンともに、取り崩しで、米国経済・石油需要の底堅さを印象付け、反発した。また、ウクライナはロシアの製油所にドローン攻撃を繰り返す中、停戦交渉については、様子見機運が大きかった。10月物終値は0.90ドル高の64.15ドル。

2 海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局(EIA)の、8月27日発表の22日現在の米国在庫週報によれば、米国の原油在庫は前週比240万バレル減と市場予想(170万バレル減)を上回る取り崩し、ガソリン在庫は120万バレル減と市場予想(260万バレル減)ほどではなかったものの取り崩しで、双方ともに、米国の石油需要の底堅さ、堅調さを印象付ける結果だった。

EIAによると、8月25日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比2.2セント高の1ガロン3.147ドル(123.3円/ℓ)と2週連続の値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比0.5セント値下りの1ガロン3.708ドル(145.2円/ℓ)と5週連続の値下がり。

ベーカーヒューズ社によると、8月22日時点で、米国内の

稼働陸上石油掘削装置は、前週比1基減の411基となった。

3 国内/原油処理量

石連週報によれば、2025年08月17日～08月23日に休止したトッパー能力は40.4万バレル/日で、前週に対して12.6万バレル/日増加した(全処理能力は311.0万バレル/日)。

原油処理量は263.6万klと、前週に比べ10.4万kl減少。前年に対しては4.1万klの増加。トッパー稼働率は76.1%と前週に対して3ポイントの減少、前年に対しては1.1ポイントの増加となった。

4 国内/製品在庫量

8月23日時点の在庫は、前週に対してガソリン、ジェット、灯油、C重油は積み増し、軽油、A重油は取り崩しとなった。ガソリンは155.2万kl、前週差5.1万kl増。前年に対しては14.6万kl多い。

灯油は257.8万kl、前週差8.1万kl増。前年に対しては68.0万kl多い。

軽油は154.9万kl、前週差9.5万kl減。前年に対しては7.2万kl多い。

A重油は75.7万kl、前週差2.7万kl減。前年に対しては6.0万kl多い。

C重油は168.0万kl、前週差4.1万kl増。前年に対しては0.9万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (8/23)	前週 (8/16)	前週比	
ガソリン	1,552	1,501	▲ 51	(3%)
ジェット燃料	901	882	▲ 19	(2%)
灯油	2,578	2,497	▲ 81	(3%)
軽油	1,549	1,644	▼ -95	(-6%)
A重油	757	784	▼ -27	(-3%)
C重油	1,680	1,639	▲ 41	(3%)
合計	9,017	8,947	▲ 70	(0.8%)

5 国内/元売会社製品卸価格

8月19日～25日のドル建て中東原油価格は前週比値上がりし、為替の円安がわずかに加わり、元売会社の卸建値は値上がりしたものと見られる。そのため、8月28日からの補助金は、3週ぶりに「予防的な激変緩和措置」が復活し、10.5円(揮発油・軽油の場合。灯油・重油は5.2円)と、前週比0.5円増額されたが、補助金込みの実質卸価格は、値上がりとなる模様。

6 国内/製品小売価格

8月25日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.5円安の174.2円、軽油も同0.5円安の154.3円、灯油は18%ベースで同4円安の2,217円(1%ベースでは同0.2円安の123.2円)。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油も2週連続の値下がり、灯油も2週連続の値下がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がり6県、横ばいは4県、値下がり37都道府県だった。全国最安値は愛知県の168.1円、その次は岩手県の169.3円であった。他方、最高値は鹿児島県の184.5円。最も値上がりしたのは和歌山県と愛媛県(前週比0.4円高)、最も値下がりしたのは東京都と沖縄県(同1.8円安)だった。

次回調査時(9/1)のガソリンの小売価格は、小幅な値動きが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (8/25)	前週 (8/18)	前週比	直近高値
レギュラー	174.2	174.7	▼ -0.5	2023/9/4 2025/4/14
灯油	123.2	123.4	▼ -0.2	08/8/11
軽油	154.3	154.8	▼ -0.5	08/8/4

※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回 (2025第22号) の公表は、9/5 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。